

令和 3 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究報告書

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者の連携に関する  
評価ツールの開発のための研究

「障害福祉領域における専門職の連携に関する文献調査」

研究分担者 鈴木 和 北海道医療大学

#### 研究要旨

障害福祉領域における専門職の連携について、先行研究を中心とした文献調査を実施した。障害福祉領域における連携に関する先行研究は、高齢者領域や医療領域などの他分野と比較し、まだ少ない現状がみえてきた。

#### A. 研究目的

本研究では、連携に関する文献を整理することで、相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者等がより効果的な連携を検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

#### B. 研究方法

学術情報データベースである、CiNii Articles（以下 CiNii）を用いて“相談支援専門員”“サービス管理責任者”“児童発達支援管理責任者”“連携”等を検索ワードとして、AND 検索及び個別ワード検索を 2021 年 11 月 9 日～11 月 17 日におこなった。また、その中で連携の評価に関して記載されたものに焦点を当てて抽出を行った。

（倫理面への配慮）

本研究は、北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会による審査の上、所属機関長による承認を得て実施した。（21N020020）

#### C. 研究結果

障害福祉領域における専門職の名称を検索語句としたところ、“相談支援専門員”で 108 件、“サービス管理責任者”で 13 件、“児童発達支援管理責任者”では 1 件のみで、他領域と比べて先行研究は多くはない状況であった。また、“連携”と関連語句で検索を行ったところ、関連諸領域の中で、“連携”と合わせて検索した結果が多かったのは、介護支援専門員（297 件）やケアマネージャー（384 件）、ソーシャルワーカー（369 件）であった。高齢者領域や医療ソーシャルワーカー、MSW（Medical Social Worker）といった医療領域での文献が多く見られた。それぞれ検索された文献のタイトルやサマリーを整理してみると、その多くが「連携の必要性」についての考察や、実際の「支援内容」に関する論文であった。障害福祉領域の諸関連分野などでは、困難事例に関連するものも一定数見られた。また、支援計画に関わる専門職としての連携についてはほとんど触れられていなかった。文献レビューで

は、他職種・他機関間の連携に関する文献を確認することができたものの、相談支援、特に相談支援専門員・サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の「連携の現状」「連携を促進する要因」に関する研究・論文はほとんどないことがわかった。データベースに本文がある論文では、他職種・他機関間の連携に関する評価測定を行なっていることを文献抽出基準としたところ、15文献が抽出され、それらにおいて「連携」に関する要因(因子)について整理を行った。連携に関する要因(因子)は、連携を構成するための要因だけではなく、促進させる要因、阻害させる要因などの視点でも整理がされていた。例として、「コミュニケーションの壁」「協調的コミュニケーション」といったコミュニケーションに関連すること、「他機関・他職種との地域連携体制の不足」「地域の他の職種の役割が分かる」といったチームの体制や関係性に関すること、「支援に対する士気が高い」「個人レベル要因：使命感、人脈の築き方」といった支援への姿勢に関することなど、一定程度類似した項目も多く見られた。

#### D. 考察

日本における連携に関する研究は徐々に広がりを見せており、その重要性についても認知され、評価するための尺度作成に関する取り組みも進められていた。しかしながら、他領域に比べ、障害福祉領域における取り組みは、まだ少ない現状であることが明らかとなった。障害福祉サービスの中では、特に支援の方向性の基礎となるサービス等利用計画と個別支援計画を通じた連携が必要と考えられる。それらの計画を作成

する相談支援専門員、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者において、「どのようなことが連携か」「なにをもって連携したといえるのか」について、支援計画を活用して評価を可視化することも求められるのではないか。

本研究の限界として、文献検索データベースを論文検索サイト CiNii のみ用いているため、対象となる全ての文献・尺度は網羅できていない可能性、連携や多職種連携の定義によっては検索しきれていない文献もある可能性が考えられる。

#### E. 結論

支援の質向上に向け、障害福祉領域における連携について先行研究もまだ多くはなく、連携の可視化を含めた取り組みの必要性が示唆された。連携の必要は語られることが多いものの、連携をとらえる共通事項については、まだ十分なものとされており、支援の質の向上に向け、さらなる研究的な取り組みが必要である。

#### F. 健康危険情報

特記事項なし

#### G. 研究発表

論文発表

鈴木和、近藤尚也、片山寛信「障害福祉領域における専門職の連携に関する文献レビュー - 支援計画に携わる視点から -」北海道医療大学看護福祉学部学会誌 18 (1) p121-126

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

別添4

資料1 障害福祉領域における主な検索語の結果

検索語句	ヒット件数
相談支援専門員	108 件
サービス管理責任者	13 件
児童発達支援管理責任者	1 件
サービス等利用計画	20 件
相談支援専門員、児童発達支援管理責任者	0 件
相談支援専門員、サービス管理責任者	3 件
相談支援専門員、サービス等利用計画	10 件
連携、相談支援専門員	49 件
連携、サービス管理責任者	7 件
連携、児童発達支援管理責任者	0 件
連携、サービス等利用計画	11 件
連携、相談支援専門員、児童発達支援管理責任者	0 件
連携、相談支援専門員、サービス管理責任者	3 件
連携、相談支援専門員、サービス等利用計画	10 件
連携、ソーシャルワーカー	<b>369 件</b>
連携、社会福祉士	127 件
連携、精神保健福祉士	79 件
連携、支援員	107 件
連携、相談員	110 件
連携、介護支援専門員	<b>297 件</b>
連携、ケアマネージャー	<b>384 件</b>
連携、医療ソーシャルワーカー	141 件
連携、MSW (Medical Social Worker)	167 件
連携、児童支援員	5 件

資料2 連携に関する先行研究における関連要因（因子）

No.	文献名	発行年	著者	調査方法	関連要因（因子）
1	市町村保健師の発達障害児に対する連携技術の構成概念の検討	2021	杉本由利子 山下清香 小野順子 香月眞美 山口のり子 尾形由紀子	・フォーカスグループ インタビュー調査 ・無記名自記式調査	「多職種連携を行うための仕組みづくり」「多職種との相互理解に基づいて役割を検討する」「多職種の支援技術を高める」「母子に子どもの特徴を伝える」「継続的に母親に関わる」
2	在宅の介護関連職における医療職との連携困難感尺度の開発	2020	藤田順子 福井小紀子 池崎澄江 辻村真由子	・インタビュー調査 ・無記名自記式調査	「尊重されない感覚（-）」「コミュニケーションの壁（-）」
3	助産師の地域連携への困難感尺度の開発	2019	三浦真依 鈴木幸子 関美雪	・文献検討 ・インタビュー調査 ・無記名自記式調査	「他機関・他職種との地域連携体制の不足（-）」「自施設の地域連携体制の不足（-）」「地域連携業務の負担における個人の認識の違い（-）」
4	北多摩南部医療圏で実施した、他職種連携促進研修の効果検証-医療介護福祉の地域連携尺度を用いて-	2018	池田登顕	・自記式質問紙調査	「地域に相談できるネットワークがある」「地域の他の職種の役割が分かる（-）」「地域のリソースが具体的に分かる（-）」
5	障害相談支援専門員とサービス管理責任者との連携に関する調査研究	2018	本名靖 久田はずき 山中幸	・アンケート調査	「相談支援専門員とサービス管理責任者が協同する場面の設定」「連携の工夫」「各種研修内容の整理と活用」
6	学校と特定相談支援事業所における情報共有の現状についての調査研究-高松市内の特定相談支援事業所を中心に-	2017	小方朋子 沼田慧	・聞き取り調査 ・インタビュー調査	「学校と相談支援事業所間における連携体制の確立」「そのための関係性作り」「専門性の向上」「多忙過ぎる現状（-）」
7	精神科における多職種チーム医療の質を測定する尺度の開発	2017	富澤涼子 繁田雅弘 平林直次	・アンケート調査	「クライアント/地域中心のケア」「協調的コミュニケーション」「専門職間の対立」「役割の明確化」「環境」
8	日本における多職種連携を促進する尺度に関する文献レビュー	2017	前川絵里子 平澤則子 飯吉令枝 高林知佳子 川野英子	文献研究 (医学中央雑誌WEB版)	疾患を限定しない5つの尺度として「連携行動」「連携の良さ」「顔の見える関係構築の良さ」「専門職間のチームワーク」「チームアプローチによるケアの質」が挙げられていた。
9	「医療介護福祉の地域連携尺度」の開発	2014	阿部泰之 森田達也	・質問紙調査	「他の施設の関係者と気軽にやりとりができる」「地域の他の職種の役割が分かる」「地域の関係者の名前と顔・考え方が分かる」「地域の多職種で会ったり話し合う機会がある」「地域に相談できるネットワークがある」「地域のリソースが具体的に分かる」
10	Relational coordination尺度日本語版信頼性・妥当性の検討	2014	成瀬昂 阪井万裕 永田智子	・自記式調査	「コミュニケーションの頻度」「コミュニケーションのタイミング」「コミュニケーションの正確さ」「問題解決的姿勢」「目標共有」「役割認識」「尊重の態度」
11	「緩和ケアに関する地域連携評価尺度」の開発	2013	森田達也 井村千鶴	・文献研究 ・インタビュー調査	「他の施設の関係者と気軽にやりとりができる」「地域の他の職種の役割が分かる」「地域の関係者の名前と顔・考え方が分かる」「地域の多職種で会ったり話し合う機会がある」「地域に相談できるネットワークがある」「地域のリソースが具体的に分かる」「退院前カンファレンスなど病院と地域の連携が良い」
12	スクールカウンセラーと教員の連携促進要因の検索的研究	2011	土居正城 加藤哲文	・文献研究 ・インタビュー調査 ・質問紙調査	「職務内容の明確化」「積極的な活用」「問題への積極的な関与」「関係者へのアプローチ」「学校に合わせた活動」
13	精神科ソーシャルワーカーの精神保健福祉実践活動-連携に着目して「連携」の関連要因に関する一考察-	2010	栄セツコ	・インタビュー調査	「経験知」「支援に対する士気が高い」「支援に対する士気が低い（-）」「目標の一致」「目標の不一致（-）」「機関間の相互尊重・相互理解」「機関間の相互尊重・相互理解の欠如（-）」「情報の共有化」「単一機関の抱え込み（-）」「機関間の価値観の一致」「機関間の価値観の相違（-）」「役割分担の柔軟性」「役割分担の硬直性（-）」「日々の関係性」「ケアマネジャーの存在あり」「ケアマネジャーの存在なし（-）」「『所属機関の理解』：マンパワー不足（-）」「『所属機関の理解』：医療機関内の専門職理解の困難さ（-）」「『地域の社会資源』あり」「『精神保健福祉領域における法・制度』の限界（-）」
14	障害相談支援従事者が認識する専門職間連携の特徴-フォーカスグループインタビューの分析を通じて-	2010	根本治代	・質問紙調査 ・フォーカスグループ インタビュー調査	「個人レベル要因：使命感、人脈の築き方」「チームレベル要因：理念の共有化、情報の共有化、合意形成、役割の明確化」「機関レベル要因：関係機関との協働」「利用者との関係：認識の不一致（-）」「多職種との関係：情報の不一致、社会的認知の低さ、スキルの不足（-）」「機関との関係：組織体制の課題、制度上の課題（-）」
15	全国の市区町村保健師における「連携」の実態に関する研究	2006	筒井孝子 東野定律	・質問紙調査	保健師の日常業務内容と連携得点との関係では、過剰な時間や労力を必要とする業務を経験している保健師の方が経験していない保健師よりも連携得点が高く、また、不利な状況下での業務を経験している保健師の方が連携得点が高かった。

※連携の阻害要因・阻害因子には（-）を付記